

子どもたちの手づくり凧が大空に!

1月25日、四万十川の鍋島河川敷で「新春たこあげ大会」が開催されました。この行事は1月18日に開催の予定でしたが、雨のため1週間延期され、子どもたちも待ちに待った開催となりました。この日あげられた凧は、昨年12月26日に四万十市立中央公民館で開催された「たこ作り教室」で親子が協力して作った和凧が中心。当日凧を持ってきていない人には凧のプレゼントもあり、参加者全員で凧あげを楽しみました。「たこあげクイン」「たこあげキング」「高く上がったで賞」「カワイイで賞」など8つの賞もあり、子どもたちは「我こそは!」と一生懸命に凧をあげていました。毎年恒例の大凧が空高く舞い上がった時には大歓声が沸き起りました。

(四万十市 宮崎泰典特派員)



絶好のたこあげ日和でした!



12月26日
「たこ作り教室」

親子連れら約50名が参加。竹ひごの組み立てからチャレンジし、一生懸命作った自慢の凧には千支の牛の絵などが描かれています。



「この大空は私のもの!」
(上手に凧を操る女の子)



「たこあげキング」おめでとう!

再生協もツルの調査に協力しました

この冬、四万十市には延べ1,000羽を超えるナベヅルが飛来し、念願の越冬もありました。私は今年初めて生でツルを見たのですが、最初に見た時には感動し、その場にきぎづけになりました。四万十市でのツルの調査は、当地でツル保護活動に取り組む四万十つるの里づくりの会や地元の方々との協働で行われ、再生協も協力しました。ツルが最初に訪れた10月末頃から毎日、朝夕に四万十川・中筋川流域のツルがよく訪れる場所へ出向き、警戒心の強いツルを驚かさなようにそーっと飛来数や行動を調べました。季節はめぐり3月半ばツルは北へと帰っていきました。日課だったツルとのふれあい(と言っても遠くから見守るだけです…)がなくなり少し淋しい気もしますが、きっと来年も来てくれると信じています。

(四万十市 平石英正特派員)



私のお気に入りの写真です
(いずれも11月、中筋川流域にて撮影)



四万十川自然再生協議会 通信

6号

発行日●平成21年3月27日
発行●四万十川自然再生協議会(略称:再生協)
四万十川自然再生協議会ホームページ
<http://shimanto-saisei.com/>

第7回四万十川自然再生協議会総会 開催!

平成21年2月28日、四万十市立中央公民館において第7回総会が開催されました。

まず、西尾正会長が平成20年度を振り返り、今季8年ぶりにツルが四万十川および中筋川流域で越冬し、再生協も協力する「ツルの里づくり」が実を結びつつあることや、遠く沖縄県や韓国から視察が訪れ、活動の輪が広がったことなどを紹介。四万十川の流域全体が国の「重要文化的景観」に選定されたことにも触れ、再生協の活動の意義を強調しました。



会員約60名が参加

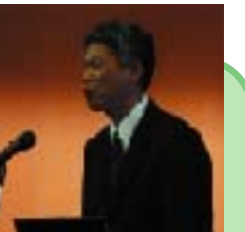
続いて、事務局が平成20年度事業実施報告および21年度事業計画の説明と、「アユの産卵場の状況」や「ツルの飛来状況」の調査結果報告を行いました。

太古の四万十に思いを馳せて...

記念講演講師、弘畑佳之先生(四万十市立中村西中学校)インタビュー

石はその土地の成り立ちを語ってくれます。初崎から西道ヶ崎灯台まで歩くと、途中海拔20mくらいの場所に砂岩の上に丸い石(礫)が含まれた地層が見られます。この丸い石と似た石がすぐ近くの小名鹿の浜にもあります。ひょっとして昔ここは海岸だった?そうです。まさに「現在は過去を解く鍵」(イギリスの地質学者ジェームス・ハットンの言葉)。この場所は後期更新世(10万年~1万年前)の地殻変動で隆起したとされています。

また、四万十川下流域では砂や泥など堆積物の中に溶岩やチャート、石灰石などさまざまな成分が混ざっている地層(メランジェと呼ばれます)が見られます。地学の教科書にも出てくるプレートテクトニクス理論もこの地質の研究によって裏付けられたとのこと。地質の宝庫四万十川で、皆さんも石を観察してみませんか?



講演では、四万十川下流域の地質についてわかりやすく紹介していただきました



小名鹿の浜

丸い石(栗石)の見える地層

四万十川自然再生協議会 通信

特派員 募集中で~す!

四万十川流域でのイベントの告知・開催報告、また身近な自然や四万十の風景を題材にしたエッセイや詩歌・俳句、写真などを本誌で紹介していませんか?再生協では特派員を募集中です。

◆お問合せは
四万十川自然再生協議会事務局(0880-34-7304)まで。

四万十川自然再生協議会通信に関するお問合せ

四万十川自然再生協議会事務局

国土交通省四国地方整備局中村河川国道事務所 工務第一課

高知県四万十市右山2033-14

tel: 0880-34-7304 fax: 0880-34-1395 e-mail: nakama40@skr.mlit.go.jp